



「ワカメの種差しの実施」

取材

概要：ワカメの種差しを実際に体験させてもらう。

小学校3年生
社会



実施内容

1. **実施校** 三浦市立旭小学校
2. **目的** ワカメの種差しを実際に体験し、漁師の方に質問をすることにより、ワカメの養殖の実態を知り、海に対する関心を深める。
3. **内容** ワカメの種差しを体験し、実際の養殖の様子を説明していただき、いくつか質問をして漁師の方に答えてもらった。
4. **日時** 平成28年 12月12日(月) 13:45～14:30
5. **場所** 旭小学校視聴覚室
6. **参加者** 旭小学校3年生22名 旭小学校校長、教頭、教諭2名 研究所職員1名
7. **指導者** 上宮田漁業協同組合 吉田 利之 氏

○最初にワカメの種差しの説明を受け、その後指導者に助けをもらいながら、ワカメの種を、大きな縄（親縄）に一人2本ずつ差していった。数か月後、成長したワカメを自分で切って、家に持って帰る計画である。

○その後、指導者から養殖の実際について説明があった。親縄をつるす深さが微妙で、大切だということで、浅すぎるとロープに絡まってしまう、深すぎると日光が当たらずうまく育たないそうだ。

○その後児童の質問を受けた。「どのくらいの数を海で育てるのか」という質問には、親縄にして50～60本くらい、数でいうと3000個くらいとの答えだった。

○吉田さんの優しい語り口に、子どもたちも心を開いていた。